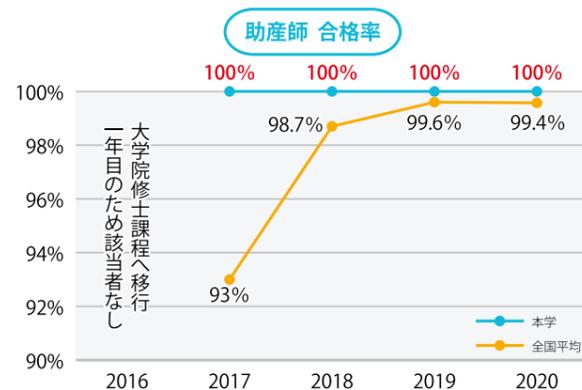
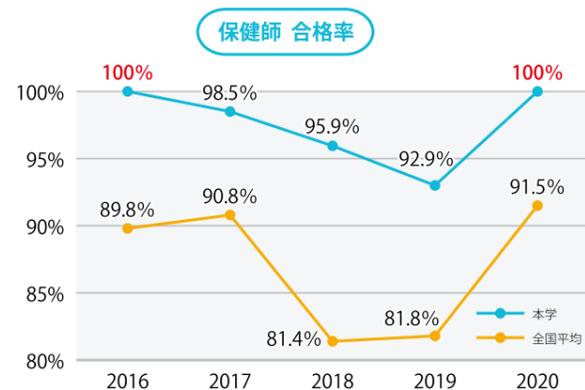


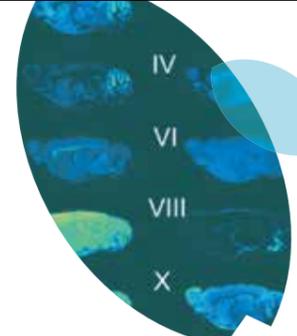
学生数	全体	1,216名		
	医学部	【医学科】 716名	【看護学科】 258名	
	大学院	【博士課程】 185名	【博士後期課程】 9名	【修士課程】 48名
職員数	全体	1,460名		
	役員	7名		
	教員	377名		
	医療系職員	887名		
	事務等	189名		

国家試験合格状況 学生一人ひとりへのきめ細かな指導により、高い合格率を実現



2020 ANNUAL REPORT

2019年度の取組と財務に関する年次報告書



MESSAGE

学長メッセージ

「ANNUAL REPORT ～2019年度の取組と財務に関する年次報告書」の刊行にあたり、ご挨拶申し上げます。

国立大学法人浜松医科大学は「建学の理念」に基づいた運営を行っており、「教育」「研究」「診療」「社会貢献・産学官連携」の4つの柱建てのもと、目標設定を行い、それぞれの分野の施策に重点的に取り組んできました。

このレポートは、浜松医科大学の取組と財務情報を組み合わせて大学を支えていただいている地域のステークホルダーの皆様方へわかりやすくお伝えできるように心がけて作成しました。

今回は特集として本学における新型コロナウイルス感染症に対する取組の現状と附属図書館リニューアルについてご紹介しています。

新型コロナウイルス感染症は現在も日々世界中で感染が確認されており、人類社会に極めて深刻な影響を及ぼしています。本学においても、参列者を限定した学位授与式など、様々な影響を受けましたが、いち早く感染対策を徹底し、全ての教職員、学生が高い防疫意識を持って行動しており、関係者全員の不断の努力により教育や診療などのわれわれの使命を果たすことができます。教育においては2020年4月初旬からオンライン授業を開始したため、学事予定通り全カリキュラムの遅れがありません。後期からは1クラスを半分に分けて少人数化をはかり、対面授業とオンライン授業を交互に受ける「ハイブリッド」形式の授業を徐々に取り入れています。また全国でも稀ですが、臨床実習も中断することなく継続しています。診療においては感染対策を継続しながら更なる備えを充実させ、全ての患者さんに安心・安全な医療の提供ができる体制を整えています。

附属図書館は隣接する福利施設棟と併せて改修工事を行い、ICT機器や情報発信、国際交流のハブ機能を持ったSociety5.0型の「スマート・ライブラリ」として生まれ変わりました。従来の図書館機能に加え、アクティブラーニング、イベント、会議、休息、書店など多くの機能を集めて、24時間利用が可能より快適かつ安全な環境で学修や研究が行えるよう整備しました。通常であれば一般の方もご利用いただけるのですが、現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当面の間、入館を制限させていただきます。ご利用いただけるようになりましたら本学ホームページにてお知らせしますので、ぜひお立ち寄りください。

本レポートによって本学の活動状況をより知っていただき、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



浜松医科大学長 今野 弘之

CONTENTS

- 01 学長メッセージ
- 02 建学の理念
第3期(2016～2021年度)の基本的な目標
- 03 【特集1】新型コロナウイルス感染症への対応
- 07 【特集2】附属図書館リニューアル
- 11 浜松医科大学の将来構想
- 13 2019年度の取組
- 17 ガバナンス
- 18 国立大学法人会計の仕組み
- 19 財務諸表等の概要
- 22 医学部附属病院の財務状況
- 23 財務状況の推移
- 25 財務データ
- 28 浜松医科大学基金
- 29 2019年度から2020年度の主な施設整備

建学の理念

第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、

第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、

第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、

以て人類の健康と福祉に貢献する。

第3期(2016～2021年度)の基本的な目標

本学の建学の理念を踏まえ、第3期中期目標期間(2016～2021年度)は、以下の事項について重点的に取り組んでいます。

1 教育

医学及び看護学の進歩に対応する能動的学習能力、問題探求・問題解決能力、そして、幅広い教養に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観、国際性を育み、地域社会に貢献できる医師・看護専門職を養成するとともに世界に発信できる研究者の育成を目指します。また、本学の特色でもある光技術等を用いた先進的な医学研究環境のもとで、次世代を担う人材育成として「光医学研究のリーダー」、「光医学の素養を持った医療人」を養成します。

2 研究

光技術と他の様々な先進的技術の融合による新しい医療技術の開発推進に取り組みます。特に新規光技術の医学への活用(メディカルフォトニクス)と光、電磁波等の多角的な原理を介した生体内の分子や情報の画像化に関して先端的で特色のある研究を推進します。

3 診療

地域医療の中核病院として高度で安心・安全な医療を提供するとともに、病病・病診連携を促進し、地域社会のニーズと個々の病院機能に応じた医療ネットワークの構築を目指すことにより、地域医療の充実に貢献します。また、光医学やイメージング等を活用した先駆的な医療を世界に発信するために、臨床教育の充実を図り、研究マインドを有する専門医の育成を推進します。

4 社会貢献

産学官連携によるものづくりの実績を活かし、光技術等を活用した特色ある研究を基盤とした実用化開発を推進するとともに、それらの活動を行う人材を育成し、社会に還元してイノベーションの源泉となることを目指します。

新型コロナウイルス 感染症への対応

2020年の現状

新型コロナウイルス感染症は世界中に拡散し、今なお収束の気配はありません。多方面に多大な影響を及ぼす中、本学ではいち早く危機対策本部を設置し、行動指針や対応フローチャートを作成、適宜改訂しながら全教職員や学生へ度々周知するなど、徹底した感染対策を施しながら、関係者全員の不断の努力により業務を継続しています。

教育

授業や試験を学事予定通り実施

実験・実習や試験は対面で、それ以外の座学はオンラインで行うことにより、学事予定通りに実施しています。対面で実施する際には、マスクの着用や手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保などの感染対策を徹底しています。

オンライン

- Web会議システムを活用した授業
- 録画した授業の動画配信
- Web会議システムを活用したアクティブラーニング

対面

- 実験
- 実習
- 定期試験
- 人体シミュレータを模擬患者とした実技試験



オンライン授業の様子

オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド授業開始

後期からは1クラスを2つの教室に分けて、一方は対面で、もう一方は同時配信で授業を実施し、交互に入れ替わって受ける形式の「ハイブリッド」授業を開始しました。



臨床実習を例年通り実施

東海・北陸地区の大学で唯一5, 6年生の臨床実習を例年通り実施しました。患者さんと学生の安全を確保しながら感染症への対応も学ぶことができ、緊迫した臨床の現場での実習は学生にとって大変貴重な学び・体験の場となっています。



眼科での臨床実習



看護学科実習

学生への周知・注意喚起

保健管理センターで作成したところのケアについてのパンフレットの配付や、危機対策本部からのお知らせや感染予防に関する注意喚起、利用可能な学費等支援制度の案内などを随時ポータルサイトに掲載し、関連情報の周知を図っています。

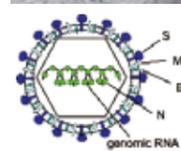
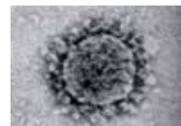
感染対策を講じた入試の実施

2020年8月～10月に実施した大学院入試及び学部編入学試験では、文部科学省が示す新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドラインに従い、手指消毒用アルコールの設置、試験室の換気、受験生と面接員の距離を一定程度離す等の対策を行いました。

研究

研究用PCR検査機器の 診療への活用体制整備

大学保有検査機器活用促進事業(文部科学省補助金)に採択され、研究用のPCR解析システムを病院でも活用できる体制を整備しました。



コロナウイルス
コロナラテン語で「王冠」のような



PCR検査機器

社会貢献

有玉小学校で感染対策授業を実施

感染対策室が企画・主催の社会貢献事業「みんなで学ぼう!感染対策2020～きちんとできているかな～」を有玉小学校にて実施し、手洗いやマスクのつけ方の実習、感染対策についての講義を行い、感染予防の重要性や正しい方法について普及啓発しました。



手洗チェッカーで洗い残しを確認中

新型コロナウイルス 感染症への対応

附属病院

安心・安全な医療提供のため、感染対策のさらなる充実と先進的な治療を実施していきます。

診療

DMAT(災害派遣医療チーム)の派遣

クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」のクラスターに対応するため、2020年2月、厚生労働省からの要請を受け、DMAT(災害派遣医療チーム)を派遣しました。

また、2020年7月に浜松市内で発生したクラスターには、浜松市保健所内に設置された浜松市調整本部に、DMATを派遣しました。

診療や健康管理等を行い、治療・感染防止に貢献しました。



クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」への派遣

感染対策チームの派遣

浜松市保健所の依頼により、2020年7月、感染対策室職員による介護老人保健施設への訪問調査を実施しました。

感染対策の専門家のいない中小病院、高齢者施設等に専門家を派遣する日本環境感染学会の事業(厚生労働省委託事業)に、本院の医師及び看護師が登録されています。

入館時発熱チェックの実施

病院玄関で入館者の体温を計測する「玄関前トリアージ」を行っています。



正面玄関での体温測定(サーモグラフィ)

感染患者への対応準備

感染対策の講習会、感染患者対応訓練を実施し、マニュアルを整備しました。

また、地元企業と協力して手術衣を共同製作したり、医学生と共に医療用ガウンを製作したりして医療資材の不足に備えています。



地元企業と共同製作した手術衣



患者さん受け入れ訓練の様子



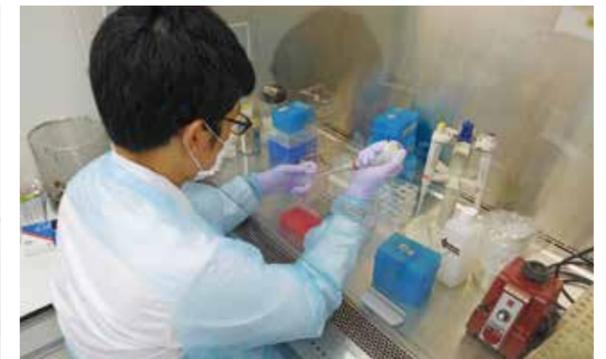
学生とともにガウン作成

入院前PCR検査の実施

特定の症例を除く全ての入院患者さんに対して入院前にPCR検査を実施しています。



PCR検査用唾液採取の様子



PCR検査処理

附属図書館リニューアル



スマート・ライブラリ

～国際基準の優れた医療人と独創力に富む研究者育成のために～

2020年3月に図書館と福利施設棟の改修工事が完了し、改修後は新たに「スマート・ライブラリ」として生まれ変わりました。「スマート・ライブラリ」とは、ICT機器や情報発信、国際交流のハブ機能を持ったSociety5.0型の図書館のことです。スマホ世代の若者たちのニーズに合った施設となるように、また、24時間快適な環境で学修や研究ができるようにとのコンセプトのもとに計画されました。

省エネや安全にも配慮し、人感センサーによる照明や空調を備え、防犯カメラによる安全確認も行われています。従来の図書館にあった静粛な学修スペースはもちろんのこと、アクティブラーニング、イベント、会議、休息、書店など多くの機能を集めて、キャンパスライフの中心的施設として活用されることを期待しています。

■ 開館時間

月曜日～金曜日 9:00～20:00(授業期)
9:00～17:00(夏季休業期)
土・日曜日 10:00～17:00

■ 休館日

夏季及び冬季休業期間中の土曜日及び日曜日
国民の祝日に関する法律に規定する休日
開学記念日(6月7日) 夏季一斉休業日 年末年始(12月29日～1月3日)

※一般の方もご利用いただけます。また本学の学生・教職員ならびに医療従事者の方(要申請)は24時間利用が可能です。

WEB

附属図書館に関する情報は、
ホームページでもご覧いただけます。
<https://www.hama-med.ac.jp/lib/index.html>



お問い合わせ

浜松医科大学 学術情報課
メール: lib-lib@hama-med.ac.jp
TEL: 053-435-2171

福利施設棟エリア

国際化推進センター

留学生や海外からの研究者が浜松医科大学でスムーズに学修や研究を行うための支援や、学生や若手研究者の留学支援など国際交流に係る業務全般を行っています。英語力を高めるための学修イベントも定期的で開催しています。宗教上の配慮をし、多目的に利用できるダイバーシティスペースや授乳室を完備しています。



谷島屋書店

教科書購入や図書館にないけれど読みたい本がある時に活用ください。



Student Commons ワークルーム

自主学修や部活動のミーティングなど、さまざまな用途で利用できます。大小3つの部屋があり、飲み物や軽食の持ち込みも可能です。



松門会ホール

エントランスホールに飲食しながら休憩したり、おしゃべりしたりできるスペースを設けました。98インチの大型情報発信モニターは、災害時には多言語対応の情報掲示板としても利用できます。医大イチバンのおしゃれ空間で、窓の外の古墳群を眺めたり、ボルダリングウォールを登ったり、頭と体をリフレッシュしてください。このホールは、松門会をはじめとする多くの方々のご支援により整備を行いました。



図書館エリア

個室エリア

集中して、学修や研究をするための個室です。このエリアは、長時間の学修の疲れが少しでも緩和されるように、人間工学に基づいて設計された椅子が入っています。予約で利用することができます。



クワイエットエリア

静かな環境で個人学修するエリアです。L字型のデスクは、図書とノートPCを広げても十分な広さです。棚付きのデスクは、2週間の長期予約ができます。また、このエリアには医学・看護に関連する書籍がすぐ手に取れるようになっています。

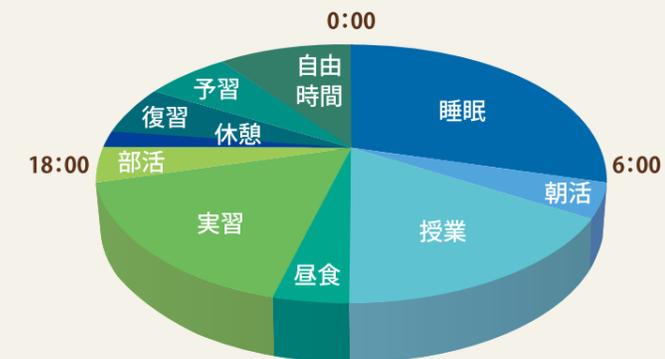


集密書架

長期の保存が必要な一般図書や製本雑誌は、温度・湿度を管理した集密書架に集めました。集中して管理することにより省エネ効果が期待できます。



ある 医大生のいちにち



- 0:00 睡眠
- 6:00 朝活
- 6:30 起床
- 7:00 朝活
国際化推進センター主催の英語医学図書を原著で読む会に参加したり、英語学習を兼ねて、新聞をチェック
- 9:00 授業
- 12:00 昼食
友達と松門会ホールで、おしゃべりしながらランチ
- 13:00 実習
病院での実習。緊張の時間が終わり息抜きにボルダリングに挑戦
- 17:00 部活
部活の先輩に、テストのポイントをしっかり確認
- 19:00 復習
浜医学修支援システムにある講義の動画を見てがっつり復習
- 21:00 予習
- 22:30 自由時間
- 24:00 就寝



コラボレーションエリア

アクティブラーニングやグループ学修のエリアです。会話も可能で机と椅子は自由に組み換えできます。ホワイトボードも多く備えています。



コミュニケーションスペース

オープン形式の講義や講習会を行うためのスペースです。予約での利用が可能です。

くつろぎスペース

ひとやすみするためのスペースです。窓の外を眺めたり、横になって本を読んだり、学修や研究の疲れをここで癒してください。



クリエイションハブ(会議室)

クリエイションハブは、世界に向けて情報発信を行うためのエリアです。会議室も大型モニターやカメラ、収録設備があり、時差に対応し24時間シームレスに国際会議ができます。



スタジオ

動画撮影用の機材と編集機材を備えています。大学スクリーンもあります。教材等の作成にご活用ください。



スピーキングルーム

防音の個室です。発話を伴った語学学修や個人で参加するweb会議などにご利用ください。

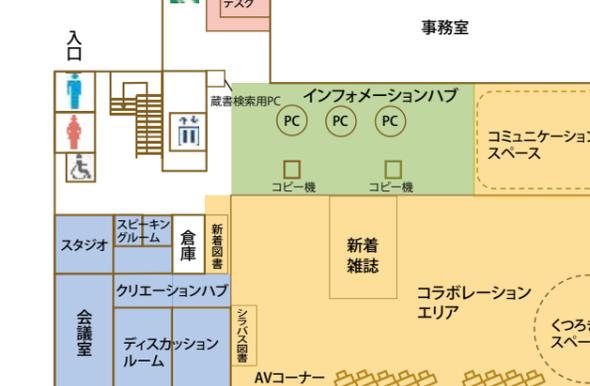


インフォメーションハブ

インターネット上の情報を入手するためのエリアです。情報検索端末、PC、プリンタ、コピー機などがいつでも使えます。



2階



図書館までの順路

バス停から病院正面に進み、右手の橋を渡って左折。

看護学科棟と講義実習棟の間を奥に入り、コンビニの前を抜けた先にあり。(徒歩5分)



浜松医科大学の将来構想

■ 目的及び使命

浜松医科大学は、医学・看護学の教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。

本学は、建学の理念に基づく上記の目的及び使命を達成するため、下記のとおり「教育」「研究」「診療」「社会貢献・産学官連携」並びに「新法人設立・大学再編」に積極的に取り組みます。

教育

新しい時代の医療人を育成するため、ディプロマポリシー（学位授与基準）に基づき、2021年度から「医学教育カリキュラム」を改革します。

国際社会への貢献に必要な資質を身につけるため、臨床実習を含め6年間を体系化した「英語教育」を行います。また、豊かな人間性、高い倫理観を備え、患者中心のチーム医療を実践できる人材を育成するため、行動科学、医療倫理、医療法学、社会医学、EBM教育（根拠に基づく医学教育）を1年次から6年次まで連続させた「らせん型カリキュラム」を構築します。さらに、探求心を涵養するため、1年次の自然科学実験、2年次の基礎医学実習、3年次の基礎配属（基礎医学等研究室での実験等による研究）へとつながる「垂直型カリキュラム」を構築します。卒後の臨床研修を見据え、臨床医学の講義を見直し、「臨床実習」を充実させるカリキュラムに改めます。

研究

本学の「強み」である光医学を更に尖鋭化するため、光先端医学教育研究センターに新たな講座を設置し、基礎医学、臨床医学の協力の下に分野横断的に展開を進め、新しい技術の開発と製品化に取り組みます。また、静岡大学との新法人設立・大学再編により、両大学の共同大学院を日本初の光医工学研究科（仮称）に発展させ、光医工学の世界的拠点を目指します。

ここでの医学研究、遺伝性疾患研究等の本学の尖った研究についても、長期的視野に立った学術研究を推進していくとともに、創薬研究への展開を指向し、新たな治療薬の開発を目指します。

これらの本学の研究においては、新設した研究戦略室を中心に各プロジェクトの目標の設定、分野横断的な研究の立案と遂行、大型外部資金獲得計画の推進を行うとともに、大学発ベンチャー企業の育成にも注力し、研究成果の社会還元を目指します。

診療

地域医療における高度急性期を担う中核病院として、患者の意思を尊重した高度で安全な医療を提供するとともに、地域医療機関との連携強化を図り、地域医療の中核的役割を果たします。

具体的には、AIやIoT、ビッグデータの分析等の新しい情報技術を活用したスマート医療、スマートホスピタルを構築します。これにより、更に先進的な医療の提供や効率的な病院運営を実現するとともに、タスクシフトを含めた医師や看護師などの医療従事者の抜本的な負担軽減を目指します。

また、初期研修、専門医研修プログラムの魅力を積極的に広報することにより、地域医療を担い、質の高い医療を提供できる医師養成を今後も推進いたします。

WEB 中期目標・中期計画及び年度計画は、ホームページで公表しています。
<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/mid-term-goal/index.html>



社会貢献・産学官連携

本学は、第3期中期計画に掲げた医療機器等開発の目標である「実用化5件以上」を大きく超え既に10件の実用化を達成しています。今後も、産学官連携を強化し、健康寿命延伸に資する機器・システム開発など、ニーズに沿った医療機器の開発を推進するとともに、高度で安全なスマートホスピタル構想など、医療データと最新IT技術を活用した革新的な医療インフラや医療モデルを構築する医療のDX（デジタルトランスフォーメーション）を提案し、新たな時代の産業の先駆けとなることを目指します。

さらに「新法人設立」による一法人化、「大学再編」を実施し、両大学の強みを活かした効果的な文理融合や医学、工学、情報学の関係により新分野を開拓し、異分野融合による産学官金連携事業の活性化や地域社会が求める人材の育成を行うため大学院の高度化、学生による分野横断的な大学発ベンチャー等を促進します。これにより、新たな地域のイノベーションを誘発し、知と人材の集積拠点としての役割を十分発揮できるよう取り組みます。

新法人設立・大学再編

静岡大学と浜松医科大学は、地域特性を考慮した機能強化を図るため、静岡市と浜松市の2つの地区単位に大学を再編し、2021年度を目途に新法人設立を目指すことで2019年3月に合意しました。この新法人設立・大学再編を大きな転換期と捉え、教育改革と研究組織の再構築に加え、地域医療の中核機関として、また、知識集約型産業・社会における知の拠点「Knowledge Hub」として、地域社会に貢献します。

新法人設立・大学再編を行うことにより、数理・データサイエンス教育などAI化時代に必要な基盤教育・研究が実施され、メディカルデータサイエンス、光医工学、医用工学、情報医学等の分野横断的な専門教育・研究が可能となります。その効果・成果を地域・日本・世界へ発信し、「Society5.0」において次世代をリードする先鋭的な大学となるとともに、「SDGs」の達成等の社会変革の原動力となるべく、地方自治体や産業界と一体となり、人口減少などの地域の課題解決や地方創生・地域活性化の中核となる取組を行っていきます。

■ 今後の実施計画（予定）

第3期		第4期			
2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度以降
		■新法人設立・大学再編	■新大学における学生受入開始	■転学部及び学部間単位互換制度の創設	
		■教育（カリキュラム）関係委員会に学外委員を加え、広範な社会ニーズを取り込む	■大学院博士課程（看護学専攻）学生受入開始	■光産業創成大学院大学等との連携強化	■産学官連携部門の外部法人化

教育

能動的学修能力の涵養

自律的学修能力、応用能力を養い、問題発見、推論・解決能力の向上を図るため、様々な取組を実施しています。

本学の特徴でもある光医学と臨床手技を学ぶ授業科目「光医学の基礎と臨床応用」においては、医学科4年次生がe-learning教材(動画・評価票)にて事前学習を行い、3種類のシミュレーターを用いたアクティブラーニングを実施しています。

この他、臨床実習におけるポートフォリオの改善を進め、学生にフィードバックを与え学修を促す形成的評価を推進する取組や、自律的な学修を促すweb教材を用いた反転講義など、新しい教育方法を積極的に取り入れ、教育の改善に活かしています。



シミュレーターを用いたアクティブラーニング(上)

反転講義の様子(左)

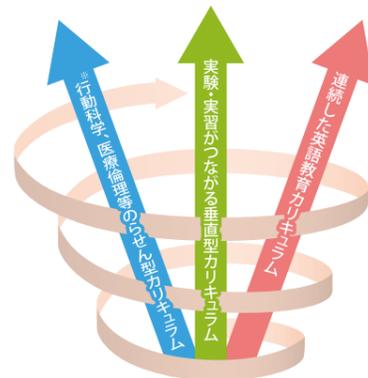
医学教育カリキュラムの改革

本学は、これまで、教学マネジメントサイクルを構築し、IR室による分析や学生及び学外の教育指導者の意見を取り入れながら、教育の改善、教育の質保証に取り組んできました。

このたび、これまでの取組を外部機関に評価いただくことで、より質の高い教育を提供するため、国際基準に準拠した医学教育分野別評価を初めて受審しました。

この受審において指摘された改善のための助言や評価等も踏まえ、学長主導の下、医学教育改善ワーキンググループを立ち上げ、2021年度からのカリキュラム改革を検討しています。新しいカリキュラムは、倫理観や科学的探究心、英語能力を体系的に涵養する1年次から6年次までの連続した「らせん型カリキュラム」(右図)であり、人生100年時代の良き医療人育成のため教育改革を実現します。

新しいカリキュラムのイメージ



※行動科学、医療倫理、医療法学、社会医学、EBM教育(根拠に基づく医療に関する教育)

地域医療に貢献する人材の育成

本学は、県内唯一の医育機関として、寄附講座を受け入れるなど静岡県や近隣の市町と協力しながら、地域医療に貢献できる人材養成を行うため、学部から初期研修、専門医研修まで一貫した教育体制の構築を進めています。2019年度は、以下の取組を実施しました。

〈入学試験〉

地域医療に意欲を持った優秀な人材を確保するため医学科一般入試及び推薦入試で地域医療枠を設定した入学試験を実施しました。

〈臨床実習〉

静岡県中東遠地域を中心としたクリニックで、全学生必修の総合診療・家庭医療を学修する臨床実習を新たに開始しました。家庭医療外来・在宅訪問診療の経験を通して、家庭医療、プライマリ・ケアを理解し、基本的診療能力とチーム医療に必要なコミュニケーション能力を身に付けます。



実習風景

研究

研究戦略室の設置

〔目的〕

- 本学の特徴である光イメージング研究の更なる推進
- 新たな研究の柱**の構築
- 分野横断的研究**及び創薬への展開に繋がる大型研究費取得

上記を計画・立案・推進するために
ワーキンググループを設置

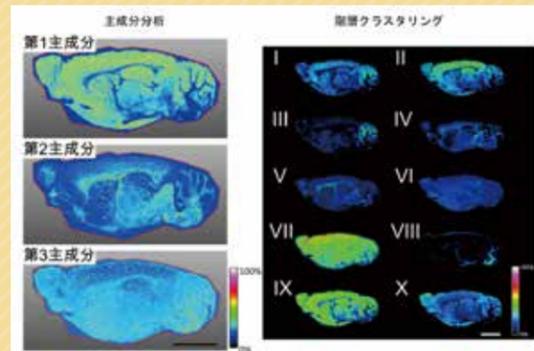
研究戦略ワーキンググループ



2019年度の研究成果代表例

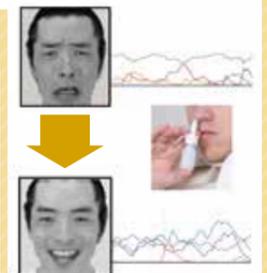
機械学習を用いた質量顕微鏡解析の自動化手法の開発と小脳に限局して分布する分子集団の発見 (Scientific Reports)

これまで検出が困難であった未知の病因分子の発見につながる可能性に期待



表情の数値化によって、オキシトシンによる自閉スペクトラム症への治療効果の経時変化を発見 (Brain)

現在は治療が困難な自閉スペクトラム症の中核症状が治療出来るようになることに期待



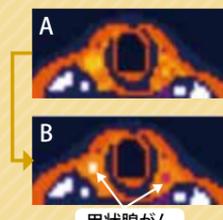
本学の主な研究指標



*科学研究費補助金、奨学寄附金、受託研究費及び民間等との共同研究費の合計

各生体組織の光学特性値の *in situ* 計測法を確立 (Scientific Reports)

近赤外光トモグラフィ画像再構成の高速化と画像精度の向上につながる(AよりもBの画像の方が鮮明にがんが描出されている)



甲状腺がん

診療

安心・安全な医療の提供

未読レポート対策強化のためシステム改修、院内感染制御・抗菌薬適正支援システムの導入、医療安全管理室の充実など、医療安全・感染対策を強化し、一層の安心・安全な医療の提供に努めています。

新型コロナウイルス感染対策

国内の新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、院内への立入り制限、職員への感染対策講習会やシミュレーションの実施など、迅速に対策を実施し、近隣地域での感染拡大に備えました。また、新型コロナウイルス感染症が多数発生したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」へ本学DMAT(災害派遣医療チーム;医師、看護師、薬剤師等で構成)を派遣し、乗客・乗員の診療、健康管理等を行い、治療・感染防止に貢献しました。

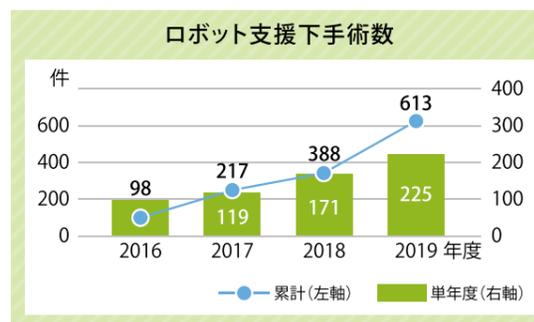
高度先進医療の提供

出血量が少なく低侵襲なロボット支援下手術に積極的に取り組んでいます。2019年度は、ロボット支援下手術ライセンスの取得に必要な手術見学の術者に本学医師が認定され、近隣病院医師への教育機関の機能も果たしています。

また、2016年度に設置したハイブリッド手術室(外科手術とカテーテル治療の両方が実施可能な多機能手術室)も心臓カテーテル治療などの増加に伴い、利用数が伸びています。今後も最先端の医療技術の提供を推進していきます。



ハイブリッド手術室



臨床研修の充実

初期研修では、県内病院と連携を密にした本院のプログラムの魅力を積極的に広報し、マッチ率も高い水準を維持しています。

専門研修においても、県内で唯一基本領域19診療科の専門研修プログラムを擁しており、静岡県内の6割強が本院プログラム登録者となっています。

現在、2021年4月の入居に向けて研修医用宿舎の新設も行っており、研修環境の整備やプログラムの更なる充実に努めています。

タスクシフティングの推進

増大する医療ニーズに応える、効率的で質の高い医療を推進するため、看護師特定行為研修センターの設置や医師事務作業補助者の増員など医師のタスクシフティングを推進しています。



社会貢献 産学官連携

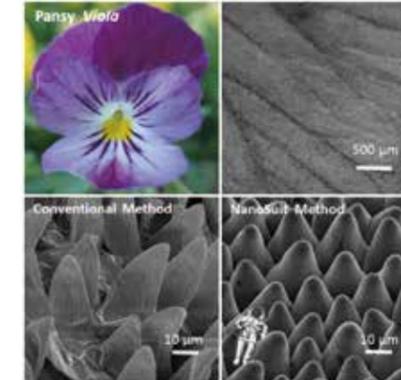
大学発ベンチャー企業支援

本学は、本学で得られた研究成果や技術を生かし社会に貢献できるよう、大学発ベンチャー企業の支援制度を構築しています。2018年度に初めての大学発ベンチャー企業 株式会社プレッパーズを設立し、2019年度は、2件の大学発ベンチャー企業が生まれています。

NanoSuit株式会社

(2019年4月1日設立)

電子顕微鏡用NanoSuit®溶液の製造販売、受託検査業務及び産業用生体適合性被膜に関するコンサルティング



パンジーの花弁の電子顕微鏡写真

従来法(下段左側)では乾燥してしまっていますが、NanoSuit®法(下段右側)では微細な突起構造が維持されています。

株式会社 はまつメディカルソリューションズ

(2019年12月9日設立)

医療機器等の開発、製造、販売及び市場調査等コンサルティング業務



新しい立体内視鏡の開発

顕微鏡の接眼部を覗くのと同時にビューワを見て、両手でマイクロ手術が可能な手術用顕微鏡感覚で使用できる立体内視鏡システム

地域の金融機関と相互協力及び連携に関する協定を締結

地域の金融機関とのより強固な関係を構築することで、地方創生の推進、地域経済の活性化、ベンチャー企業の育成・支援など地域社会の発展と人材育成に寄与していくことを目指します。



大橋静岡銀行常務執行役員、山本理事・副学長

野田浜松いわた信用金庫専務理事、山本理事・副学長



地域の感染対策教育を推進

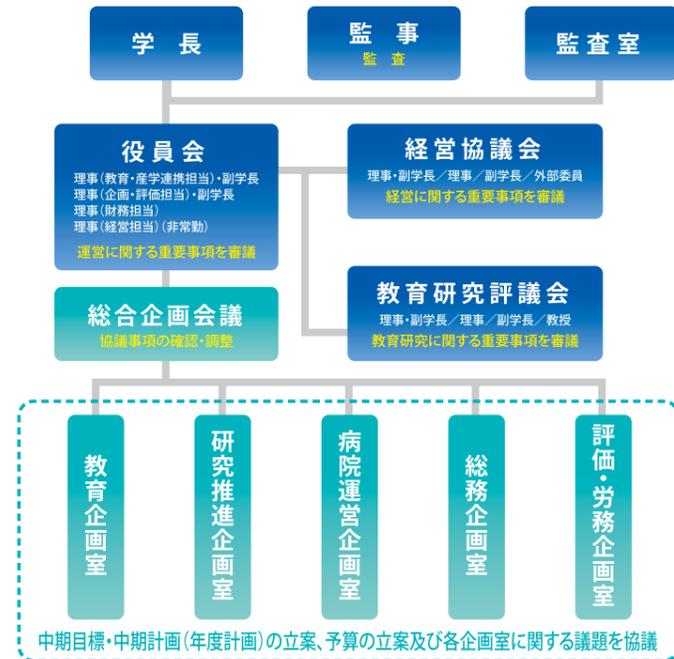
「親子で学ぼう!感染対策2019」セミナーを開催

小学校の親子を対象に感染対策に関する体験実習を行っています。身の回りや体の中にたくさんのバイ菌(細菌)がいることを学んでもらうことで感染予防の重要性や正しい感染対策知識の普及に努め、地域社会の健康の増進に貢献しています。

ガバナンス体制

本学では、各分野の専門的事項等を協議するため5つの企画室を置き、室長には、その分野を所掌する理事、副学長を充てています。この企画室では、中期目標・中期計画(年度計画)の立案及び予算の立案も一体的に協議を行うことにより、目標達成に向け効率的な体制を構築しています。さらに、学長や各企画室長等で構成される総合企画会議では、各企画室において協議された事項について、改めて確認・調整を行った上で、中期目標・中期計画(年度計画)や予算等の重要な事項については、国立大学法人法で設置が定められている教育研究評議会、経営協議会及び役員会において審議しています。

また、学長の指揮の下に、本学の活動状況を公正かつ客観的な立場で監査させるため、監査室を置くとともに、国立大学法人法に基づき本学の業務を監査するため監事を置いています。



研究費の不正使用防止及び研究活動の不正行為防止への対応

本学では、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)(2007年2月15日 文部科学大臣決定 2014年2月18日改正)」、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン(2014年8月26日 文部科学大臣決定)」に基づき、以下の責任体制の下、研究費の不正使用防止及び研究活動の不正行為防止に向けて取り組んでいます。

責任体系		
競争的資金等の使用・運営・執行		
最高管理責任者	学長	●法人統括
会計事務統括管理責任者	理事(財務担当)	●学長補佐 ●会計事務統括
コンプライアンス推進責任者	事務局次長(総務・教育担当)	●不正防止対策の実施 ●コンプライアンス教育の実施・管理
各講座等の主任教員		●所属職員への周知徹底 ●法令及び関連規則遵守 ●研究費適正使用の遵守
研究活動の不正行為防止		
研究公正最高責任者	学長	●法人統括
研究公正統括責任者	副学長(研究担当)	●学長補佐 ●不正行為防止事務統括
倫理教育統括責任者		●学長補佐 ●研究者倫理向上事務統括
研究公正・倫理教育責任者	各講座等の主任教員	●所属職員への周知徹底 ●法令及び関連規則遵守 ●研究者倫理の向上

- 関係組織等**
- 研究費等不正防止計画推進委員会**
 - 不正防止計画の策定・実施
 - 実施状況及び監査結果の確認と必要に応じた是正対応
 - 研究活動公正推進委員会**
 - 研究倫理の向上を図るための教育、研修
 - 不正行為への対処並びに研究の公正な推進
- 窓口**
- 監査室**
 - 告発窓口
 - 研究協力課**
 - 事務処理手続等に係る相談窓口
- 主な取組**
- スタートアップミーティングの実施(関係各部署の事務局職員が国等からの受託研究費を獲得した各講座等担当者(教員・事務補佐員)に対して個別に執行ルールや事務手続等の注意事項などを説明し、連携・情報共有・意識統一を図っている。)
 - 定期的な不正防止に関する講習会の実施
 - e-learningによる研究倫理教育の実施

WEB 研究費等の不正防止に関する基本方針や規則等は、ホームページで公表しています。
<https://www.hama-med.ac.jp/research/fraudulent/index.html>



財務諸表

国立大学法人は、財務諸表を事業年度毎に作成し、翌事業年度の6月末までに文部科学大臣へ提出して承認を得ることとされています。なお、本学の2019事業年度財務諸表につきましては、2020年8月31日付で文部科学大臣の承認を得ました。

国立大学法人会計基準の特徴

	国立大学法人会計	企業会計
目的	財政状態・運営状況の開示、業務実績の適正評価を受けるための情報開示	財政状態・経営成績の開示
利害関係者	国民その他の利害関係者	株主、投資家、債権者等
財務諸表等(決算書類)	・損益計算書 ・貸借対照表 ・キャッシュ・フロー計算書 ・利益の処分又は損失の処理に関する書類 ・国立大学法人等業務実施コスト計算書 ・附属明細書	・損益計算書 ・貸借対照表 ・株主資本等変動計算書 ・附属明細書
利益の獲得	目的としない	目的とする
費用発生基準	発生主義	発生主義
会計基準・法令	国立大学法人会計基準	企業会計原則

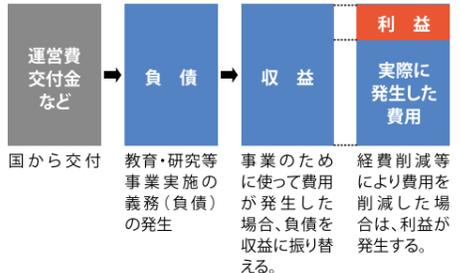
企業会計では、貸借対照表と損益計算書を通じて企業の財政状態および経営成績を開示しております。企業会計における財務報告の目的の一つとして、株主や潜在的な投資家の投資意思決定と取引先や利害関係者の意思決定に役立つ財務状況の開示が挙げられます。これに対して、公共的な性格を有し、利益の獲得を目的とせず、独立採算制を前提としない国立大学法人においても貸借対照表と損益計算書を開示しています。しかし、国立大学法人の財務報告の目的は、経営成績ではなく、国立大学法人等による業務の遂行状況や業績の適正な評価に役立つ財務状況の開示にあります。また、附属病院の診療行為等といった多額の事業実施に伴う収入が想定されるため、事業の継続性、安定性を開示するために経営成績を加味した運営状況を開示する必要があります。このため、附属明細書のセグメント情報という形で附属病院の運営状況を開示することとしています。

国立大学法人会計基準の特徴的処理

①収益の認識

国から受け取る運営費交付金などは、教育・研究等事業の実施のために渡されるため、任された事業を実施する義務を果たす必要があります。そのため、交付された時は負債に計上して、このお金を事業のために使って費用が発生した場合、計上した負債を収益に振り替えます。

計画通りに事業を実施した場合は、収入＝支出となり損益は均衡しますが、経費削減等により期間内にかかる費用を抑えた場合は、利益が発生し、この利益に対して経費の節減の努力が認められれば、目的積立金として積み立てることができます。



②損益均衡の会計処理

運営費交付金、授業料、寄附金、補助金などで固定資産を取得した場合、受領時の債務(負債)を「資産見返負債」に振り替えます。固定資産の減価償却に伴って資産見返負債は資産見返負債戻入という収益に振り替えられ、これらの処理により資産・負債、収益・費用が均衡します。

資産増加	資産減少	負債振替
固定資産 購入20	預金 △20	資産見返負債 20
資産購入時	固定資産 20	資産見返負債 20
	減価償却費の発生	減価償却費を併せて資産見返負債戻入(収益)に振り替え
1年目	10	10
2年目	10	10
費用	10	10
収益	10	10
利益	0	0

損益が均衡する

③損益外の会計処理

施設費等を財源とする固定資産を取得する場合の多くは、原価に対応する収益の獲得が予定されていません。したがって減価償却計算においては、その原価相当額を減価償却費として損益計算書に計上することはせず、資本剰余金から控除して資本の価値の減少として取り扱うことになります。これは、費用に対応する収益がないので費用も計上しないという損益均衡の考え方によります。

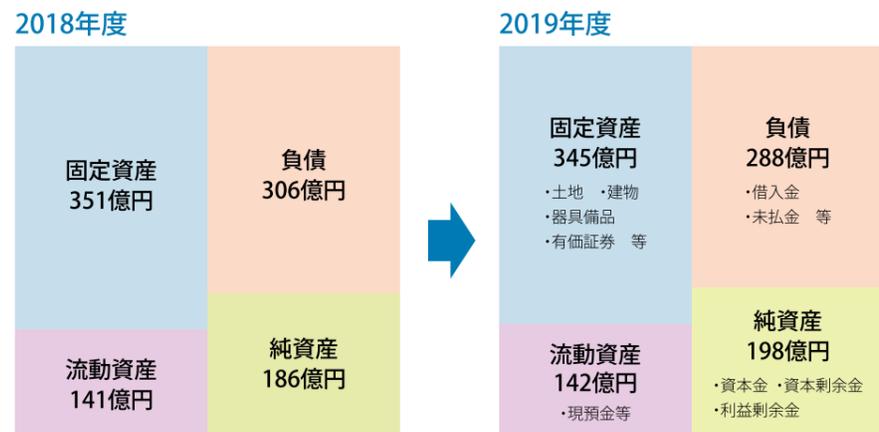
資産購入時	固定資産 20	資本剰余金 20
	減価償却費の発生	減価償却費を併せて資本剰余金を減らしていく
1年目	10	10
2年目	10	10
減価償却費	10	10
損益外減価償却相当額		

財務諸表等の概要

運営費交付金が削減傾向の中、外部資金の獲得や附属病院収入の増収の取組等により業務損益は黒字を計上しており、健全な財務状況となっています。

貸借対照表

本学の決算日における資産、負債、純資産を表し、財政状態を明らかにするものです。借入金等の負債と国からの出資等の純資産による土地、建物等の資産をもとに教育、研究、診療の業務活動を行っています。貸借対照表の概要は以下のとおりです。



主な増減要因

- 固定資産(前年比較6億円↓)**
固定資産については、佐鳴台宿舍の土地売却、減価償却累計額の増等により減少しました。
- 負債(前年比較18億円↓)**
負債については、長期借入金の償還等により減少しました。
- 純資産(前年比較11億円↑)**
純資産については、施設費により取得した資産相当額の増加に伴う資本剰余金の増等により増加しました。

損益計算書

本学の年度内に実施した事業により発生した費用、収益を表し、一年間の運営状況を明らかにするものです。教育、研究、診療の業務・目的別に費用を示し、運営費交付金や附属病院等の財源別に収益を示します。損益計算書の概要は以下のとおりです。



主な増減要因

- 費用(前年比較22億円↑)**
経費率の高い疾患群での患者数の増及び手術件数の増に伴う医薬品費及び診療材料の調達増等により増加しました。
- 収益(前年比較19億円↑)**
手術件数の増、診療単価の向上による附属病院収益の増加等のため増加しました。

2019年度の当期総利益は7億円となります。

利益の処分にに関する書類

当期総利益(未処分利益)のうち、経営努力により生じた利益であると文部科学大臣から承認を受けた金額は目的積立金となり、中期計画で定められた剰余金の使途の範囲内において、翌年度以降に国立大学法人の裁量により使用することが可能になります。



*各金額は単位未満を切り捨てているため、計が一致しない場合があります。ただし、利益の処分にに関する書類については、積立金と目的積立金の合計金額を当期総利益と一致させるために単位未満を切り上げている金額があります。

キャッシュ・フロー計算書

本学における一事業年度の資金の流れを「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3つの区分に分けて表示しています。キャッシュ・フロー計算書の概要は以下のとおりです。

[業務活動によるキャッシュ・フロー]

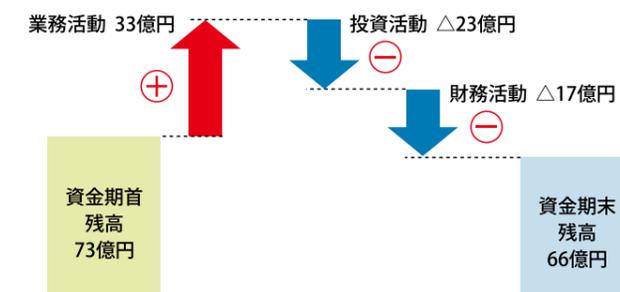
国立大学法人等の通常の業務の実施に係る資金の状態を表す。資金を獲得した場合はプラス、流出した場合はマイナスになる。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表す。資産等売却の場合はプラス、資産等への投資の場合はマイナスになる。例:固定資産の取得による支出、施設費による収入など。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

資金の調達及び返済に係る資金の状態を表す。資金を調達した場合はプラス、債務等を返済した場合はマイナスとなる。例:大学改革支援・学位授与機構からの長期借入金の返済による支出、長期借入による収入など。



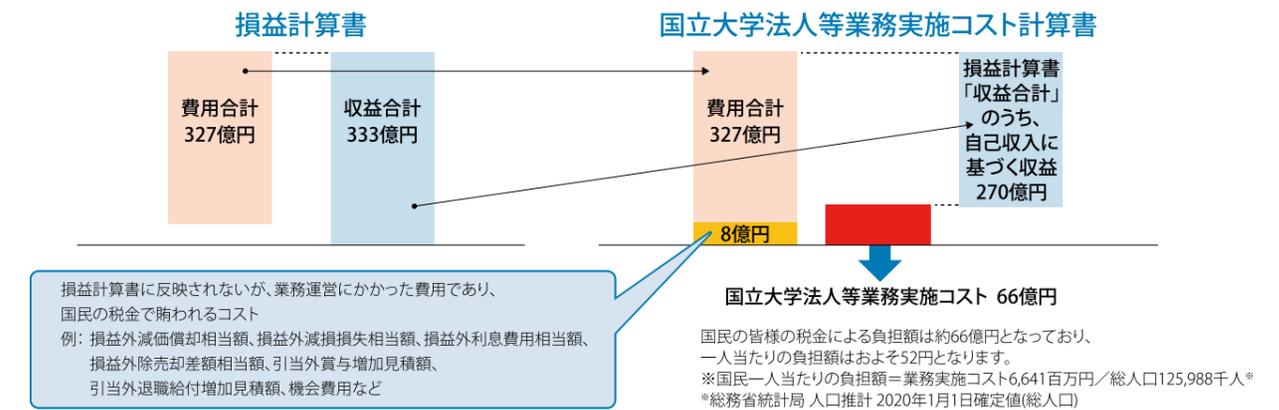
<参考>キャッシュ・フロー計算書のパターンと判定

本学においては「業務活動」については+、「投資活動」「財務活動」については-となっているため、④のパターンに該当します。国立大学法人で通常想定されるパターンであり、健全な事業活動を行っています。

業務	投資	財務	財務状況	備考
①	+	+	+	不必要な資金調達を行っており、資金に無駄がある。
②	+	+	-	本業で資金を獲得し、借入金返済に充当する一方で、設備投資を抑制している。
③	+	-	+	本業で資金を獲得し、さらに借入による設備投資も行っている。
④	+	-	-	本業で資金を獲得し、設備投資や借入金返済に充当している。本学はこれに該当しています。
⑤	-	+	+	本業で資金が不足しているため、借入により賄い、投資も抑制している。
⑥	-	+	-	本業で資金が不足しているため、投資を抑制し、借入金返済を行っている。
⑦	-	-	+	本業で資金が不足しているため、借入により設備投資を行っている。
⑧	-	-	-	本業で資金が不足だが、設備投資を行い、借入金返済も行っている。

国立大学法人等業務実施コスト計算書

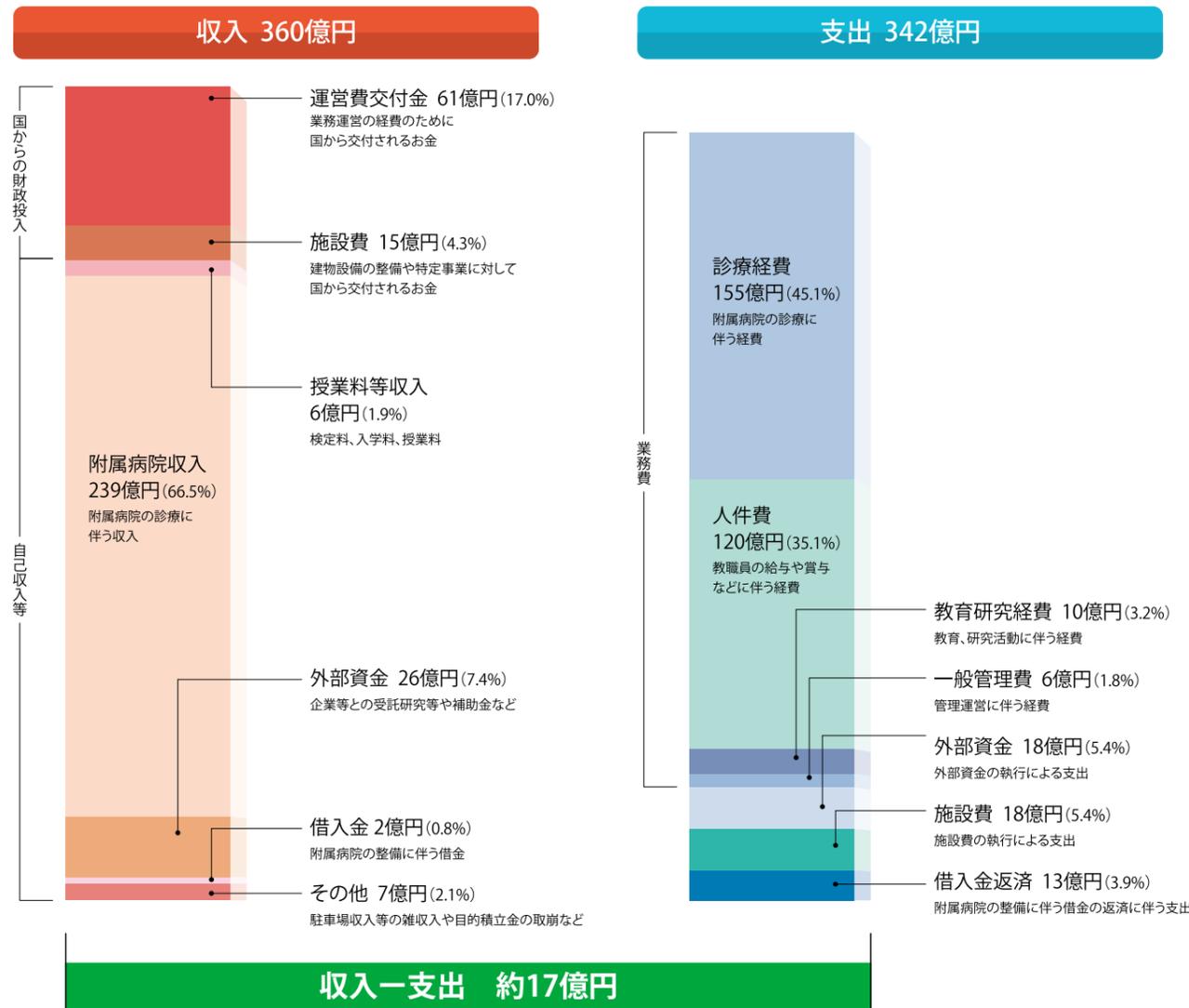
本学の教育・研究・診療等の業務運営に関して、どれだけの費用(コスト)が国民の税金で賄われているかを表示しています。納税者である国民の国立大学法人等の業務に対する評価及び判断に資するものです。国立大学法人等業務実施コスト計算書の概要は以下のとおりです。



財務諸表等の概要

決算報告書

決算報告書とは、国における会計認識基準に準じ、現金主義を基礎としつつ一部発生主義を取り入れて国立大学法人等の運営状況を収入・支出ベースで報告するものです。収入については、附属病院収入等の自己収入が運営資金の大半を占めております。また、支出については、業務費のほとんどが診療経費と人件費で占めております。



2019年度は、収入が支出を上回り、約17億円の剰余が発生しています。そのうち、使途が限定されている繰越分等を除いた約4億円は文部科学大臣の承認を受け、目的積立金として大学の裁量で2020年度以降に使用可能なお金となりました。

※各金額は単位未満を切り捨てているため、計が一致しない場合があります。
ただし、収入－支出の内訳については、内訳の合計額と収入－支出の金額を一致させるために単位未満を切り上げている金額があります。
※利益の取扱については19ページ「利益の処分に関する書類」をご覧ください。
※目的積立金の今後の使用予定等については24ページをご覧ください。

医学部附属病院の財務状況

概要

附属病院セグメントにおける事業の実施財源は附属病院収益約243億円 (91.0% (当該セグメントにおける対業務収益比、以下同じ。))、運営費交付金収益約20億円 (7.7%)、その他の収益約3億円 (1.3%)となっています。また、事業に要した経費は、教育研究経費約3億円、診療経費約166億円、受託研究費等約1億円、人件費約89億円、その他費用約2億円となっています。

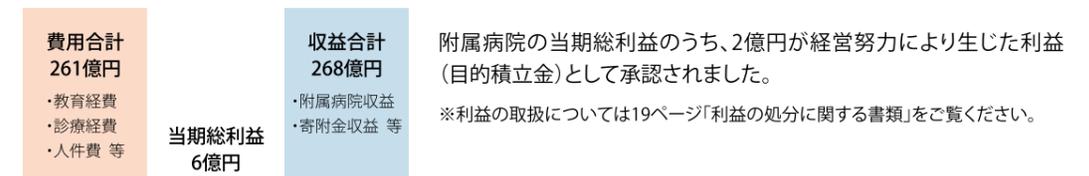
附属病院収入については、新たな加算等の取得、手術件数の増、救急患者の積極的な受け入れ等による新規入院・外来初診患者の増及び平均在院日数の短縮等による入院・外来単価の向上等により増収を図ることができました。

2006年度から2013年度にかけて実施した病院再整備事業により整備した機器等の更新時期を迎え、附属病院の機能の維持・向上のために必要な設備整備を計画的に行おうとしていますが、今後、医療機能強化棟の建設やそれに伴うスタッフの増員・設備整備による支出増に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による減収も予想されるため、予算管理の徹底・増収節減策等の経営努力の継続と資金の確保が引き続き重要な経営課題となっています。

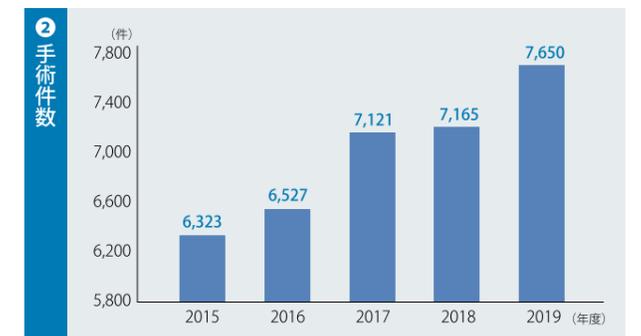


損益計算書(附属病院)

附属病院セグメントの損益計算書の概要は以下のとおりです。



※各金額は単位未満を切り捨てているため、計が一致しない場合があります。



※救急経路入院数：救急外来から入院した患者数

※新入院患者数：新たに入院した患者数

財務状況の推移

■ 決算報告書(決算額)

(単位:百万円)

中期目標期間	第2期	第3期			増減 (前年比較)
区分	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
収入					
運営費交付金※2	6,030	5,888	5,996	5,825	295
施設費	509	121	1,042	949	592
授業料等収入	686	687	693	690	△ 6
附属病院収入	19,244	19,983	21,653	22,502	1,446
外部資金	2,306	2,529	2,756	2,881	△ 218
借入金	353	517	448	762	△ 465
その他	409	343	588	800	△ 44
計	29,537	30,069	33,176	34,410	1,599
支出					
業務費※3	24,617	24,434	26,109	27,216	1,951
教育研究経費	7,189	6,730	7,115	7,060	33
診療経費	17,428	17,704	18,994	20,156	1,918
施設費	862	638	1,491	1,711	128
外部資金	1,791	1,912	1,942	2,008	△ 162
借入金返済	1,604	1,576	1,612	1,558	△ 227
貸付金	—	10	21	21	1
大学改革支援・学位授与機構施設費納付金	—	—	—	—	67
計	28,873	28,571	31,175	32,514	1,758
収入-支出	664	1,498	2,001	1,896	△ 157
外部資金等の繰越分	534	800	914	999	55
賞与・退職手当の引当金繰入額	125	152	162	191	26
目的積立金	—	546	925	706	△ 239

※1 各金額は単位未満を四捨五入しているため、計が一致しない場合があります。
 ※2 内訳は用途が特定されていない基幹運営費交付金(一般運営費交付金)、用途が特定される基幹運営費交付金(特別運営費交付金)及び特殊要因運営費交付金です。
 ※3 21ページの「決算報告書」の支出の部「人件費」については業務費に含めて表示しています。
 ※4 2015年度については中期目標期間の最終年度のため、国立大学法人会計基準に基づき目的積立金を計上していません。

■ 本学の財務状況の傾向

収入について

直近5年間の収入は、附属病院収入の増加等により増加傾向です。

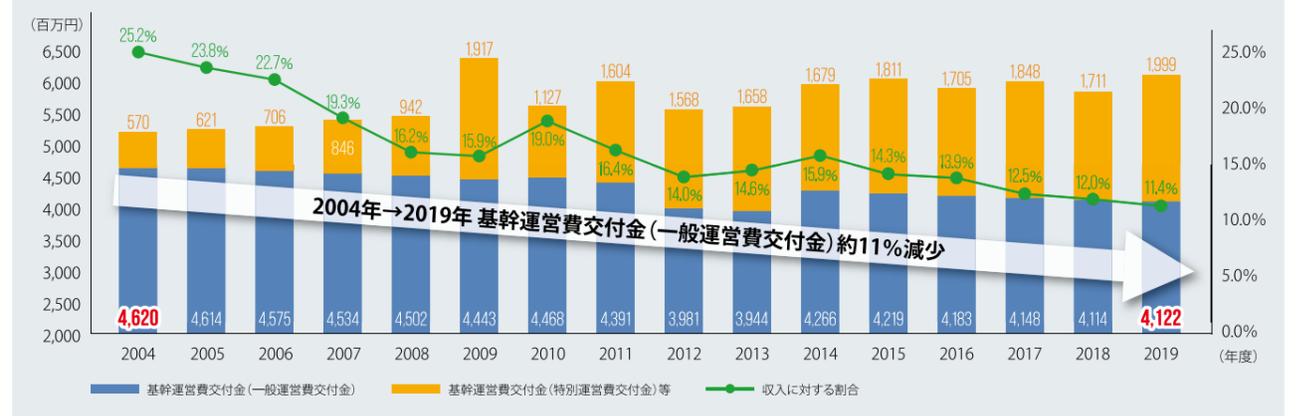
支出について

直近5年間の支出は、診療経費の増加、附属図書館・福利施設棟改修をはじめとした施設整備に伴う施設費の増加により増加傾向です。

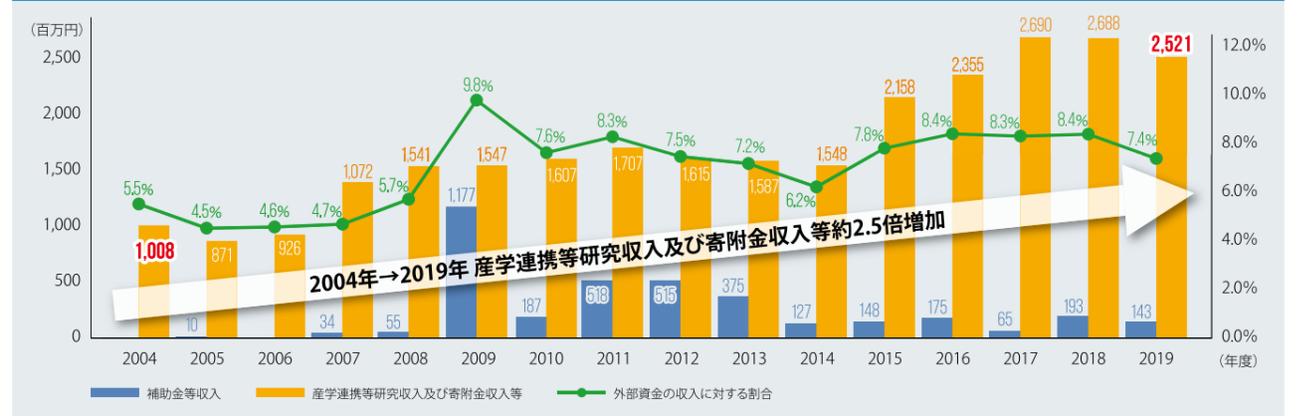
目的積立金について

直近5年間については、中期目標期間の最終年度である2015年を除き、毎年目的積立金を計上しています。

運営費交付金の推移



外部資金の推移



■ 目的積立金による主な整備事例

教育環境の充実

- ・講義実習棟実習室空調設備の整備
- ・課外活動施設の整備
- ・看護学科実習室映像音響設備の整備
- ・臨床講義棟映像音響設備の整備
- ・実習用機器の購入

研究環境の充実

- ・研究用共同利用機器の購入
- ・基礎臨床研究棟共同実験室の改修

診療環境の充実

- ・医療用機器の購入
- ・医学部附属病院新病棟の建設
- ・患者用立体駐車場の建設



血管撮影システム



医学部附属病院新病棟

■ 目的積立金の今後の使用予定

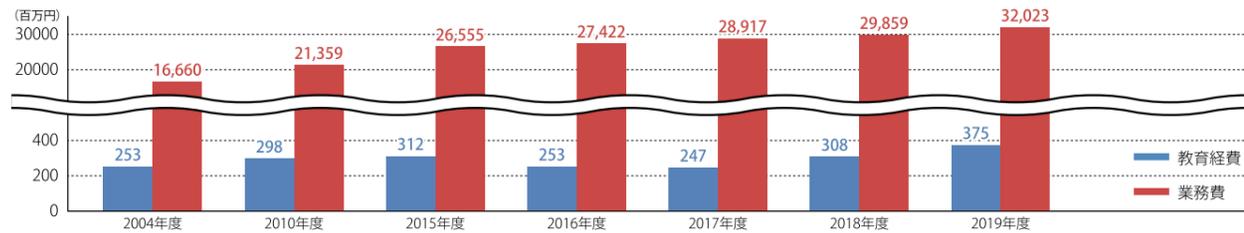
医療機能強化棟の新設とそれに伴う医療機器の購入



医療機能強化棟(完成予定図)

財務データ

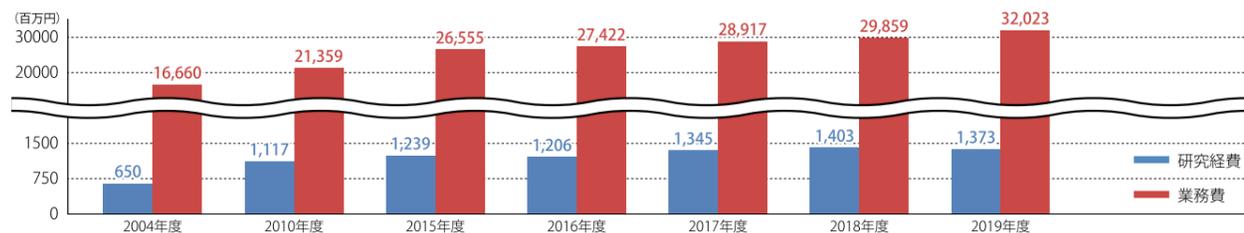
■ 教育経費 教育経費とは、入学試験、正課教育、課外活動など学生等に対し行われる教育に要する費用を対象としています。前年度に比べ、福利施設棟の改修に伴う修繕費の増加、減価償却費の増加等により増加しています。



中期目標期間 区分	第1期			第2期			第3期		
	2004年度	2010年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度		
教育経費	253	298	312	253	247	308	375		
業務費	16,660	21,359	26,555	27,422	28,917	29,859	32,023		
教育経費比率	1.5%	1.4%	1.2%	0.9%	0.9%	1.0%	1.2%		
同規模大学平均	1.7%	1.8%	1.6%	1.4%	1.4%	1.4%	1.4%		

【教育経費比率】 教育経費が大学の経常的な経費に占める割合を示し、この数値が大きいかほど教育活動に使用される資源の割合が高いとされています。
教育経費比率=【損益計算書】教育経費÷【損益計算書】業務費計×100

■ 研究経費 研究経費とは、研究に要する経費を対象としています。(受託研究費等は除く。)法人化以降、研究経費、研究経費比率とも増加傾向ですが、2019年度は前年に比べ、消耗品費の減少、備品費の減少等により減少しています。



中期目標期間 区分	第1期			第2期			第3期		
	2004年度	2010年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度		
研究経費	650	1,117	1,239	1,206	1,345	1,403	1,373		
業務費	16,660	21,359	26,555	27,422	28,917	29,859	32,023		
研究経費比率	3.9%	5.2%	4.7%	4.4%	4.7%	4.7%	4.3%		
同規模大学平均	4.4%	4.8%	4.2%	3.9%	4.0%	3.9%	3.5%		

【研究経費比率】 研究活動で消費される経費が大学の経常的な経費に占める割合を示し、この数値が大きいかほど研究活動に使用される資源の割合が高いとされています。
研究経費比率=【損益計算書】研究経費÷【損益計算書】業務費計×100

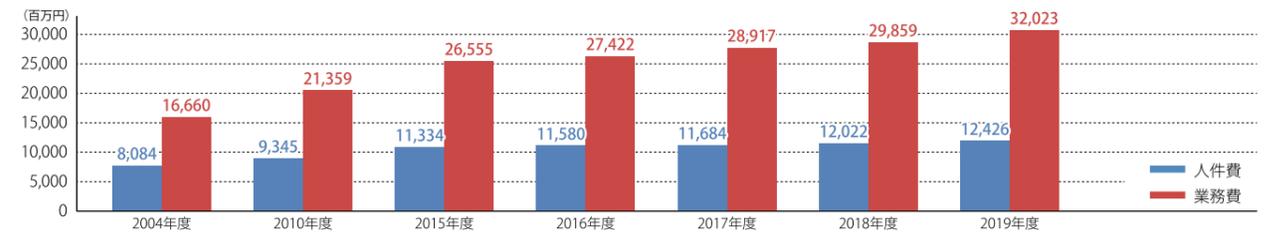
■ 診療経費 診療経費とは、附属病院における診療報酬の獲得が予定されている行為に対する経費を対象としています。法人化以降、附属病院収益の増加に伴い、診療経費も増加しています。今後は診療報酬改定による対応可能な加算等の取得について早期の実施を目指すとともに、医療材料の見直し及び後発医療品の採用の拡大等により増収・経費削減を行うこととしています。



中期目標期間 区分	第1期			第2期			第3期		
	2004年度	2010年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度		
診療経費	7,112	9,562	12,585	13,179	14,132	14,849	16,601		
附属病院収益	10,979	14,817	19,412	20,204	21,789	22,572	24,394		
診療経費比率	64.8%	64.5%	64.8%	65.2%	64.9%	65.8%	68.1%		
同規模大学平均	67.0%	66.9%	63.9%	62.9%	63.2%	63.0%	64.2%		

【診療経費比率】 診療経費が附属病院収益に占める割合を示す指標であり、この数値が低いほど附属病院収益に見合う収益が確保されているとされています。
診療経費比率=【損益計算書】診療経費÷【損益計算書】附属病院収益×100

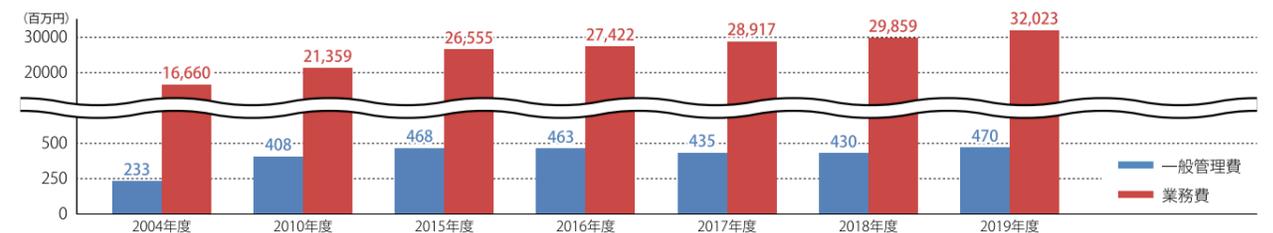
■ 人件費 本学の傾向としては、法人化以降の業務の拡大に伴い人件費は増加してきました。働き方改革等による時間外労働の削減や業務効率化、さらに医療機能強化棟の開設により職員の増員が必要となることから、今後は人件費の増大が予想されます。



中期目標期間 区分	第1期			第2期			第3期		
	2004年度	2010年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度		
人件費	8,084	9,345	11,334	11,580	11,684	12,022	12,426		
業務費	16,660	21,359	26,555	27,422	28,917	29,859	32,023		
人件費率	48.5%	43.8%	42.7%	42.2%	40.4%	40.3%	38.8%		
同規模大学平均	46.5%	43.5%	43.6%	43.5%	43.0%	43.2%	42.5%		

【人件費率】 人件費が法人の業務費に占める割合を示す指標であり、この数値が低いほど効率性が高いとされています。
人件費率=【損益計算書】人件費÷【損益計算書】業務費計×100

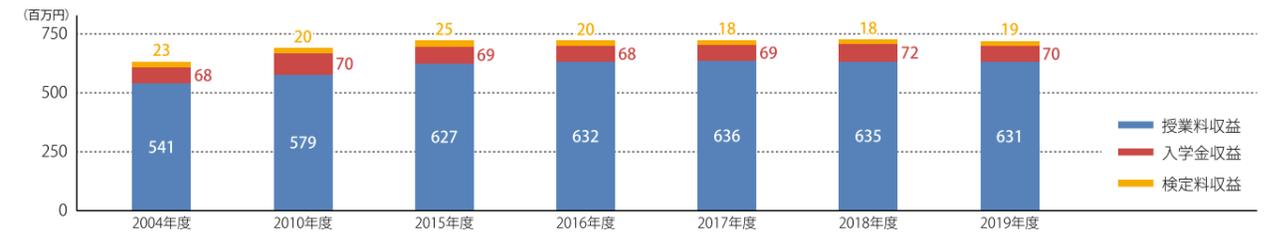
■ 一般管理費 一般管理費とは、大学の管理運営を行うために要する経費を対象としています。本学の傾向としては、法人化以降の業務の拡大に伴い一般管理費は増加してきました。2019年度は前年度に比べ、報酬・委託・手数料の増加等により増加しています。



中期目標期間 区分	第1期			第2期			第3期		
	2004年度	2010年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度		
一般管理費	233	408	468	463	435	430	470		
業務費	16,660	21,359	26,555	27,422	28,917	29,859	32,023		
一般管理費率	1.4%	1.9%	1.8%	1.7%	1.5%	1.4%	1.5%		
同規模大学平均	1.4%	1.9%	1.6%	1.6%	1.6%	1.7%	1.8%		

【一般管理費率】 一般管理費が法人の業務費に占める割合を示す指標であり、この数値が低いほど効率性が高いとされています。
一般管理費率=【損益計算書】一般管理費÷【損益計算書】業務費計×100

■ 学生納付金収益 学生納付金収益とは授業料や入学金、検定料による収益です。2019年度はおおむね前年度並みの収益となっております。



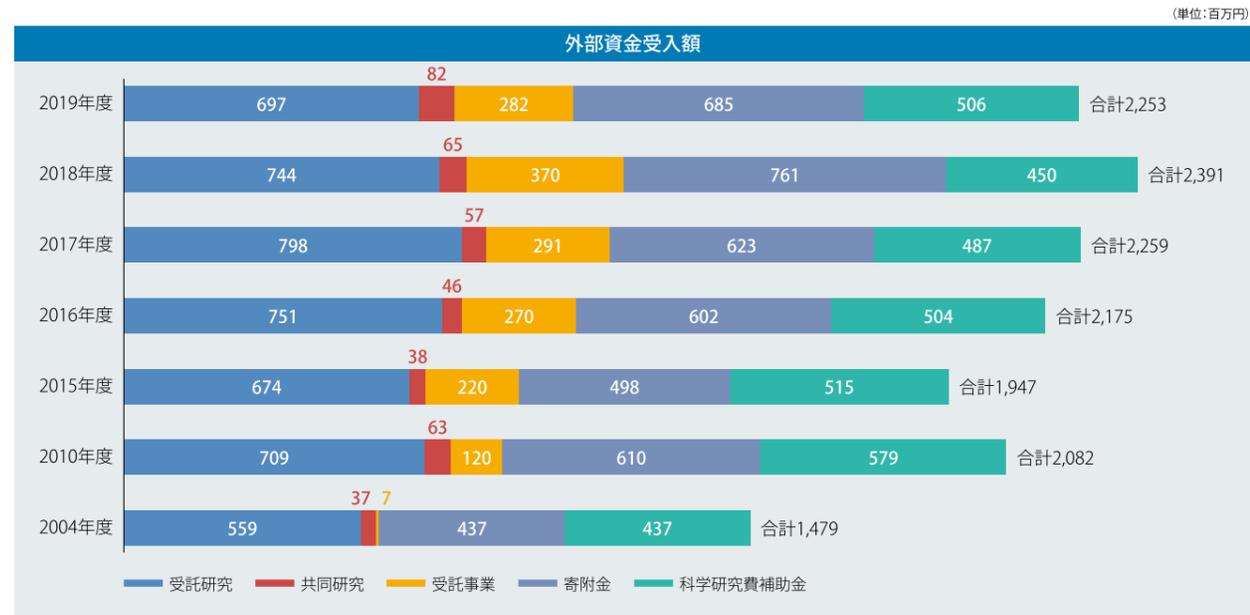
区分	2019年度
授業料収益	631
入学金収益	70
検定料収益	19
合計(学生納付金収益)	720

区分	(単位:百万円)
学生納付金収益①	720
経常収益②	33,342
学生納付金割合 ①/②×100	2.2%

財務データ

外部資金

外部資金とは、国からの競争的資金に相当する科学研究費補助金、個人や企業による寄附金、企業等と協力して研究や事業を行う受託研究、共同研究、受託事業等を対象としています。研究者に交付される科学研究費補助金については、研究遂行に関連して必要とする経費(間接経費)のみ収益として扱います。



※1 財務諸表附属明細書に記載の受入額を記載しています。 ※2 受託研究、共同研究、受託事業、科学研究費補助金の中には、間接経費分を含んでいます。
 ※3 寄附金の中に現物寄附(物品等)は含んでいません。

安全性の指標

① [流動比率]

1年以内に支払うべき債務を支払い財源で確保されている割合を示す指標であり、100%を超えていれば流動負債を流動資産で支払うことが可能な状態です。
 流動比率 = 【貸借対照表】流動資産 / 【貸借対照表】流動負債 × 100

(単位:百万円)

中期目標期間 区分	第1期		第2期		第3期		
	2004年度	2010年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
流動資産	5,408	7,737	11,390	11,882	12,848	14,910	14,208
流動負債	4,402	6,032	8,809	8,784	9,688	10,961	10,246
流動比率	122.9%	128.3%	129.3%	135.3%	132.6%	129.5%	138.7%

② [自己資本比率]

【自己資本比率】 総資産(負債と純資産の合計)のうち自己資本(純資産)の割合を示す指標であり、この数値が高いほど健全性が高いとされています。
 自己資本比率 = 【貸借対照表】純資産 / 【貸借対照表】負債と純資産の合計 × 100

(単位:百万円)

中期目標期間 区分	第1期		第2期		第3期		
	2004年度	2010年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
純資産	7,805	14,578	15,277	15,768	17,226	18,691	19,880
負債と純資産の合計	22,709	41,657	44,121	43,454	46,873	49,369	48,741
自己資本比率	34.4%	35.0%	34.6%	36.3%	36.8%	37.9%	40.8%

※単位はすべて百万円 各金額は単位未満を切り捨てているため、計が一致しない場合があります。
 ※同規模大学平均とは、医科系大学のうち本学及び本学の規模に近い2大学を含めた3大学(旭川医科大学、滋賀医科大学、浜松医科大学)の平均値です。

WEB 財務に関する情報は、ホームページで公表しています。
<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/financialinfo/financial.html>



浜松医科大学基金

教育・研究・診療及び社会貢献活動を推進していくために募金活動を行うこととし、2016年7月「浜松医科大学基金」を設立しました。

「浜松医科大学基金」によって、医学及び看護学の教育研究に打ち込める環境や様々な交流を行う機会を提供することにより、将来性豊かな多くの若者を優れた医療人や研究者に育てたいと思っています。

浜松医科大学はこれからも地域社会に貢献しつつ、本学の特色を世界に発信していきます。

光で「視る、診る、看る」を極め、日本・世界の医療を牽引する大学を目指しています。

■ 浜松医科大学基金寄附額 2020年3月末現在

基金設立より、**677名、149企業・団体**の皆様から
309,231千円のご寄附をいただきました。



■ 2019年度 浜松医科大学基金を活用した学生支援などの実績

14,220千円

- ・TOEIC受験について支援
- ・国際交流会館の改修と室内整備
- ・図書館の整備
- ・ティーチングアシスタント・リサーチアシスタントの雇用、海外留学についての修学支援事業



図書館は学修スペースの拡充を行い、什器等を整えています。

お寄せいただきました寄附金につきましては、ご意向に沿い、有効に活用させていただきます。主な使途は、教育研究活動、グローバル人材育成、修学支援事業などです。
 2019年度に、図書館、医療機能強化棟の整備事業への寄附募集を開始しましたが、2020年度新たに講義実習棟の整備事業への寄附募集を開始しました。浜松医科大学基金に一層のご理解とご支援をお願いいたします。

附属図書館の整備

附属図書館と福利施設棟を一体的に機能させて国際化スペースや学修スペースを整備し、国際的なレベルの医療人育成のため、ICTを活用したSociety5.0型図書館へ機能を充実させます。

医療機能強化棟の新設

患者さんへの身体に負担の少ない手術、放射線治療、がん化学療法などの実施や、全ての母子に対し妊娠・分娩・新生児期管理等への安全性・快適性を高めるなど、さらなる機能の強化を備えた施設として、2021年度中の稼働開始に向け準備を進めています。

講義実習棟の改修



講義実習棟は、1975年に竣工し、多くの医学生が研鑽を積み45年が経過しました。老朽化への対応が急がれるとともに、中長期的な観点からIT時代の様々な最先端技術を取り入れた学修環境、居心地のよいラウンジやアメニティの提供に向けて準備を進めています。

WEB 浜松医科大学基金については、ホームページをご覧ください。
<https://www.hama-med.ac.jp/kikin/index.html>



2019年度から2020年度の主な施設整備(整備中含む)

教育・研究・診療・産学官連携に係る環境の充実や来学される方々の利便性向上のため、様々な施設整備を実施しています。

主に下記の財源を使用して
整備を進めています。
(施設名称部分を色分けしています。)

- 国からの施設整備費補助金
- 大学改革支援・学位授与機構からの長期借入金
- 民間資金等



医療機能強化棟(仮称)

- 建物面積1,515㎡/延床面積6,250㎡
- 鉄筋コンクリート造/地上5階地下1階
- 工期:新棟 2020.1~2021.10(予定)
- 2020年2月工事着手



基礎臨床研究棟改修

- 建築面積1,580㎡/延床面積15,831㎡
- 鉄筋コンクリート造/地上9階地下5階
- 工期:2017.8~2020.10
- 2019年10月Ⅱ期工事完了
2020年10月Ⅲ期工事完了



附属図書館・福利施設棟改修

- 建築面積2,213㎡/延床面積2,833㎡
- 鉄筋コンクリート造/地上3階
- 工期:2019.7~2020.3(外構~2020.7)
- 2020年3月建物工事完了
2020年7月外構工事完了



舟岡橋耐震補強

- 橋長:59.8m、高さ:9.95m
- 幅員:2.25m
- 工期:2020.6~2021.2(予定)
- 2020年6月工事着手



杏林スマイルテラス

(調剤薬局・物販・大学借用スペース)

- 建物面積305.72㎡/延床面積891.46㎡
- 鉄筋コンクリート造/地上2階地下1階
- 工期:2020.1~2020.12(予定)
- 2020年1月工事着手



職員・留学生・研修医宿舎

- 研修医・留学生用宿舎1棟
建築面積483㎡/延床面積1,017㎡ 鉄筋コンクリート造地上3階
- 職員宿舎2棟
単身用:建築面積648㎡/延床面積2,443㎡ 鉄筋コンクリート造地上5階
世帯用:建築面積603㎡/延床面積2,217㎡ 鉄筋コンクリート造地上5階
- 工期:解体2019.9~2019.12 留学生2020.3~2021.2(予定)
職員2020.4~2021.9(予定)
- 2019年9月工事着手